

籍しているといわれる¹⁾。しかし、個々の疾患に関する全国的にまとまった就学状況の資料はない。そこで先天性稀少疾患のデータベースとして、小児慢性特定疾患治療研究事業（以下、小慢事業）で対象となっている先天性代謝異常に関して、全国的な登録状況、就学状況を集計解析した。

患児の重症度や予後とも大きく関連する就学状況をまとめ、就学相談を初めとした各種カウンセリングの資料、また、医療と教育の連携システムの提言への資料とした。

B. 対象

平成 17～20 年度小慢事業に関して、実施主体である都道府県・指定都市・中核市から厚生労働省に、21 年 6 月までに電子データによる事業報告があり登録された先天性代謝異常児のデータをまとめた²⁾。述べ登録人数は 13,660 人であり、そのうち研究の資料とすることに同意を得られた 13,310 人（97.4%）のデータを利活用した。

ただし、実施主体からの事業報告は年度ごとに異なるため、実施主体ごとに最新の年度のデータをまとめた。17 年度 1 か所、18 年度 7 か所、19 年度 73 か所、20 年度 15 か所、合計 96 か所からの事業報告であった。神奈川県、香川県、熊本市以外の全国のデータ 4,539 人のうち、就学前を除いて 6～18 歳児 3,181 人を対象とした。

C. 方法

厚生労働省に報告された小慢事業のデータは、国立成育医療センター研究所のサーバー内に蓄積されている。そのデータベースを基に登録人数や就学状況を集計解析した。平成 17 年度の法制化後、新たに対象となったり、細分化されて登録されている疾患もあるため、法制化後の状況を電子データからまとめた。

就学状況に関しては、小慢事業の医療意見書に載っている通常学級、特別支援学級、特別支

援学校、訪問教育、その他に分類した。そして、疾患ごと、また、発症年月齢別、症状・運動機能別や合併症の有無別に就学状況を集計解析した。さらに発症が生後 0 か月の場合は、新生児マススクリーニング（以下、MS）で発見の有無別にもまとめた。

D. 結果と考察

1. 疾患ごとの就学状況

先天性代謝異常の各々の疾患ごとに児童生徒（小中高校生）の登録人数と就学状況を表 1 に示す。全体としては 3,181 人中、通常学級への就学 2,104 人（66.1%）、特別支援学級 157 人（4.9%）、特別支援学校 296 人（9.3%）、訪問教育 47 人（1.5%）、その他 46 人（1.5%）、就学状況が無記入 531 人（16.7%）であった。ただし、電子データには 1 項目しか入力できないので、通常学級と特別支援学級など複数の学級での支援状況は不明である。

しかし、比較的重症な疾患である眼脳腎症候群（ロウ症候群）、ガングリオシドーシス、ムコリピドーシス、Lesch-Nyhan 症候群などの患児では通常学級への就学はほとんどみられなかった。また、プロピオン酸血症、副腎白質ジストロフィー、ピルビン酸代謝異常、スフィンゴリピドーシス、ムコ多糖症、色素性乾皮症などの皮膚疾患などでも、通常学級への就学は半数以下であった。

先天性代謝異常は、同じ疾患、また同じ遺伝子異常であっても重症度は患児によって異なる。しかし、疾患ごとの重症度や予後は、表 1 の就学状況によってある程度推測可能である。疾患の予後に関する患児家族へのカウンセリングの際、また、就学をどうするか決める際の資料になることが期待される。

フェニルケトン尿症の患児は、MS で発見、早期治療によって通常学級に就学しているはずであるにもかかわらず、6 人が通常学級以外に就学していた。無記入の 1 人を除き、5 人は MS で発見されていたが、それらのうち 4 人に知

的障害などの症状がみられた。MSで発見されないタイプのビオプテリン欠乏症の可能性、また、MSで発見されたにもかかわらず適切な治療が行われていなかった可能性がある。それらの問題点に関しては、今後の調査、解析、改善が望まれる。

同様にMSで発見されるメープルシロップ尿症とガラクトース血症Ⅰ型は、各々3人と2人が通常学級以外に就学していた。これらはMSの結果が出る前に既に臨床症状が出ていて、その後の治療がうまくいっても後遺症を残した症例の可能性がある。また、前者は古典型のため治療に抵抗した可能性、そして後者は食事療法が非常に難しかった可能性がある。

ホモシスチン尿症は2人が、通常学級以外に就学していた。一般的にはMSで発見されないⅡ型またはⅢ型の可能性、また、十分な治療コントロールのできなかつたⅠ型である可能性が考えられる。

色素性乾皮症やシェーグレン・ラーソン症候群など皮膚疾患患児にも特別支援教育を受けている患児が比較的多かった。知的障害ありとの記載も多かったが、目に見える症状があるために社会生活を送るには多くの苦難が伴うことも考慮しなければならない。

2, 発症年月齢別の就学状況

先天性代謝異常の発症年月齢別、また、発症が生後0か月の場合はMSで発見の有無別に、登録人数と就学状況を表2に示す。

通常学級への就学割合に関しては、MSで発見された患児では、79.7%（就学状況が無記入を除くと92.0%）と比較的高かった。しかし、その患児を除外すると乳児期に発症した場合は64.0%（同74.1%）と比較的低く、次いで幼児期発症は69.1%（同78.7%）、6～17歳の発症は78.1%（同88.9%）であり、発症年齢が上がるにつれて高くなる傾向が認められた。逆に特別支援学校への就学割合は、発症年齢とともに低くなる傾向がみられた。

MSで発見された患児を除外すれば、比較的

重症な患児ほど早期に発症し、また、病気の経過が長くなっているからと考えられる。重症度や予後判定、また就学相談時の資料となることが期待される。

3, 症状別の就学状況

先天性代謝異常の症状・運動機能別、また、合併症の有無別の登録人数と就学状況を表3に示す。

知的障害や痙攣がある患児では、通常学級への就学割合は各々 $70/560=12.5\%$ 、 $47/239=19.7\%$ と低く、ことに両者を合併する患児では、 $13/197=6.6\%$ と極めて低かった。痙攣ありの場合、 $197/239=82.4\%$ に知的障害を伴っていたことは、先天性代謝異常児に痙攣を伴う場合、比較的重症であることを示している。また、訪問教育を受けていた47人中45人には知的障害がみられた。

知的障害なしの患児の通常学級就学割合は、 $1695/1978=85.7\%$ （就学状況が無記入を除くと94.8%）と高かった。知的障害の有無が、特別支援教育を受けるかどうかの重要な判定基準になっていると考えられる。

運動障害のある患児では、通常学級への就学割合は $291/769=37.8\%$ （同43.0%）と低く、ことに寝たきりの場合はほとんどが特別支援教育、訪問教育などを受けていた。

運動機能レベル別にみた通常学級への就学割合は次の通りであった。座れる、または歩行障害がある運動機能レベルの場合、各々、 $28/85=32.9\%$ （同35.4%）、 $87/215=40.5\%$ （同46.0%）であった。しかし、歩ける程度では、その割合は $158/266=59.4\%$ （同65.8%）と比較的高くなっていた。さらに走れる場合は、 $1595/1799=88.7\%$ （同92.6%）であり、運動障害なしの $1501/1790=83.9\%$ （同92.9%）とほぼ同様であった。

以上、知的障害、また歩行障害以上の運動機能障害を伴う場合に特別支援教育の対象になりやすいことを示している。逆に、知的障害、運動障害ともにない患児では、通常学級就学割合

は、1454/1643=88.5% (同 97.5%) と高く、ほとんどが通常学級に就学していた。

上記以外の症状、すなわち疾患特有の症状がある場合の通常学級就学割合は、成長障害あり 60.3% (同 69.2%)、骨変形 62.2% (同 72.2%)、特異顔貌 58.4% (同 65.9%)、尿路結石 55.2% (同 68.2%)、肝腫 63.4% (同 71.0%)、嘔吐/下痢 43.8% (同 49.0%)、眼科的異常 49.3% (同 54.6%) であった。これらの就学割合は、全体での就学割合 66.1% (同 79.4%) と比べてやや低かった。

それら疾患特有の症状がみられるものの、知的障害と運動障害が共でない患児は比較的少なかった。その場合の通常学級就学割合は、成長障害あり 88.9% (同 95.9%)、骨変形 87.2% (同 97.0%)、特異顔貌 87.6% (同 95.9%)、尿路結石 81.1% (同 95.6%)、肝腫 91.7% (同 97.6%)、嘔吐/下痢 80.0% (同 88.0%)、眼科的異常 95.0% (同 96.9%) であり、ほとんどが通常学級に就学していた。

以上のことは、疾患特有の症状がある患児は知的障害や運動障害を伴う場合が比較的多く、そのことと合わせて特別支援教育の対象になりやすいことを示している。疾患特有の症状の理解と対応策、それには施設の整備ならびに学校の先生の人的充実が望まれる。

合併症のある患児では、通常学級就学割合は 47.8% (54.7%) と低かった。しかし、合併症があっても知的障害、運動障害ともない場合は 86.0% (93.8%) であり、ほとんどが通常学級に就学していた。合併症がある患児は知的障害や運動障害も伴いやすく、その場合に特別支援教育の対象になりやすいことを示している。

E. 結論

1) 先天性代謝異常児の就学状況は、全体として、通常学級 66.1%、特別支援学級 4.9%、特別支援学校 9.3%、訪問教育 1.5%、その他 1.5%、不明 16.7% であった。

2) 比較的重症な眼脳腎症候群、ガングリオ

シドーシス、ムコリピドーシス、Lesch-Nyhan 症候群などの患児では通常学級への就学はほとんどみられなかった。

3) 発症年齢が高くなるほど、通常学級への就学割合が高くなる傾向が認められた。

4) 疾患ごとの就学状況は、その重症度や予後をある程度示しており、疾患の予後に関する患児家族へのカウンセリングの際、また、就学をどうするか決める際の資料になると期待される。

5) 知的障害、また歩行障害以上の運動機能障害を伴う場合に特別支援教育の対象になりやすかった。疾患特有の症状、また、合併症がある患児は知的障害や運動障害を伴う場合が比較的多く、そのことと合わせて特別支援教育の対象になりやすかった。疾患特有の症状等の理解と対応策、それには施設の整備ならびに学校の先生の人的充実が望まれる。

6) 新生児マススクリーニング (MS) で発見、早期治療されているはずのフェニルケトン尿症 6 人は、通常学級以外に就学していた。MS 対象疾患でありながら通常学級以外に就学している場合は、今後の調査、解析、改善が望まれる。

謝辞：ご協力いただいた患児家族、実施主体や厚生労働省の担当者、そして医療機関、担当医師に深謝いたします。

資料

1) 西牧謙吾：学校生活における慢性疾患の子どもへの教育。小児慢性疾患支援マニュアル；11~16、東京書籍、東京、2005

2) 加藤忠明、藤本純一郎、別所文雄他：平成 19 年度小児慢性特定疾患治療研究事業の全国登録状況。厚生労働科学研究「法制化後の小児慢性特定疾患治療研究事業の登録・管理・評価・情報提供に関する研究」報告書、印刷中、2010

表1 先天性代謝異常の児童生徒の就学状況、疾患ごとの人数

疾患名	ICD10	登録人数	通常学級	特別支援学級	特別支援学校	訪問教育	その他	無記入
先天性葉酸吸収不全症	E53.8	2			2			
ビタミンD依存性くる病	E55.0A	6	4					2
フェニルアラニン代謝異常(以下、再掲)		191	159	4	2		1	25
フェニルケトン尿症	E70.0	163	140	3	2		1	17
高フェニルアラニン血症	E70.0B	23	17					6
ヒオプトリン欠乏症	E70.0C	5	2	1				2
チロシン代謝異常(以下、再掲)		11	9	1				1
アルカプトン尿症	E70.2A	4	4					
チロシン血症Ⅰ型	E70.2E	6	4	1				1
チロシン血症Ⅲ型	E70.2D	1	1					
楓糖尿症	E71.0	16	9		1		2	4
有機酸代謝異常症(以下、再掲)		84	43	15	14	2	2	8
メチルマロン酸尿症	E71.1H	42	21	7	9	1	1	3
プロピオン酸血症	E71.1F	21	7	7	2	1	1	3
イソ吉草酸血症	E71.1A	3	2	1				
3-ヒドロキシ-3-メチルグルタル酸尿症	E71.1J	5	4					1
β-ケトチオラーゼ欠損症	E71.1K	3	3					
複合カルボキシル欠損症	E88.8P	5	4		1			
グルタル酸尿症Ⅰ型	E72.3A	5	2		2			1
脂肪酸代謝異常症(以下、再掲)		35	19	2	2		2	10
脂肪酸β酸化異常症	E71.4	1	1					
中鎖アシルCoA脱水素酵素欠損症	E71.4A	2	2					
短鎖アシルCoA脱水素酵素(SCAD)欠損症	E71.4B	1					1	
極長鎖アシルCoA脱水素酵素欠損症	E71.4C	10	7					3
カルニチンパルミトイルトランスフェラーゼ欠損症	E71.3C	16	7	1	2		1	5
カルニチンアシルカルニチン転移素酵素欠損症	E71.4E	2	1					1
グルタル酸尿症Ⅱ型	E72.3F	3	1	1				1
副腎白質ジストロフィー	E71.3A	52	16	3	14	7	3	9
先天性パーセ欠損症	E71.3B	1	1					
アミノ酸転送異常(以下、再掲)		134	60	12	28		1	33
シスチン症	E72.0C	6	3	2				1
眼脳腎症候群	E72.0D	33	1	6	19			7
シスチン尿症	E72.0E	61	39	1	2			19
ファンconi症候群	E72.0F	26	12	2	5		1	6
ハルトアップ病	E72.0G	1		1				
リジン尿性蛋白不耐症	E72.0K	2	2					
高オキシチン血症高アンモニア血症ヒトリン尿症	E72.0L	5	3		2			
ホモシスチン尿症	E72.1C	17	12		2			3
尿素サイクル代謝異常(以下、再掲)		144	95	15	13			21
尿素サイクル代謝異常	E72.2	7	3	1				3
高アルギニン血症	E72.2A	2			1			1
アルギニノコハク酸尿症	E72.2B	4	1	1	1			1
高アンモニア血症	E72.2C	40	20	9	4			7
シトルリン血症	E72.2D	39	31	2	1			5
オキシントランスカルバミラーゼ欠損症	E72.2E	49	39	2	4			4
カルバミルリン酸合成酵素欠損症	E72.2H	3	1		2			
高リジン血症	E72.3B	1						1
3-メチルグルタル酸尿症	E72.3C	4	1	2		1		
高グリシン血症	E72.5A	4			2			2
高プロリン血症	E72.5C	1	1					
高ヒドロキシプロリン血症	E72.5D	1						1
腎性アミノ酸尿症	E72.9	4	3					1
乳糖分解酵素欠損症	E73.0	17	8	6	1		1	1
乳糖不耐症	E73.9	31	21	3	4	1		2

疾患名	ICD10	登録 人数	通常学 級	特別支 援学級	特別支 援学校	訪問 教育	その 他	無記入
糖原病(以下、再掲)		187	144	5	9		2	27
糖原病Ⅰ型	E74.0A	41	29		3		1	8
糖原病Ⅱ型	E74.0B	19	13	1	2			3
糖原病Ⅲ型	E74.0C	10	7		1		1	1
糖原病Ⅳ型	E74.0D	1	1					
糖原病Ⅴ型	E74.0E	1	1					
糖原病Ⅵ型	E74.0F	7	6	1				
糖原病Ⅶ型	E74.0G	1	1					
糖原病Ⅷ型	E74.0H	1	1					
糖原病Ⅷ、Ⅹ型	E74.0I	31	28	1				2
肝型糖原病	E74.0J	2	1					1
糖原病	E74.0L	73	56	2	3			12
フルクトース-1,6-ジホスファターゼ欠損症	E74.1D	7	6				1	
ガラクトース血症(以下、再掲)		52	38	1	1			12
ガラクトース血症Ⅰ型	E74.2A	19	14	1	1			3
ガラクトース血症Ⅱ型	E74.2B	19	13					6
ガラクトース血症Ⅲ型	E74.2C	14	11					3
グルコース・ガラクトース吸収不全症	E74.3	4	2	2				
ピルビン酸代謝異常(以下、再掲)		22	6	3	9	3	1	
ピルビン酸カルボキシラーゼ欠損症	E74.4A	3	2			1		
ピルビン酸脱水素酵素欠損症	E74.4C	19	4	3	9	2	1	
アミラーゼ欠損症	E74.8A	1	1					
シュウ酸尿症	E74.8C	3	3					
グリセルアルデヒド-3-リン酸脱水素酵素欠乏症	E74.8D	1					1	
ショ糖・イ麦芽糖吸収不全症	E74.8F	1	1					
ガングリオシス(以下、再掲)		10			5	5		
Tay-Sachs病	E75.0B	6			2	4		
GMI-ガングリオシス	E75.1A	4			3	1		
スフィンゴリポドーシス(以下、再掲)		81	29	5	19	13	4	11
スフィンゴリポドーシス	E75.2	1						1
Alexander病	E75.2A	5	1	1	1	1		1
Gaucher病	E75.2D	24	8	3	2	3	3	5
Fabry病	E75.2E	17	16					1
異染性ロイコシトローフィー	E75.2F	8	1		4	3		
Krabbe病	E75.2G	7	2		2	3		
Niemann-Pick病	E75.2J	6			2	3	1	
Pelizaesus-Merzbacher病	E75.2K	13	1	1	8			3
neuronal ceroid lipofuscinosis	E75.4	3			3			
コレステロールエステル蓄積症	E75.5A	3	3					
シアル酸尿症	E75.5C	3				1	1	1
ムコ多糖症(以下、再掲)		121	32	19	50	4	1	15
Hurler症候群	E76.0A	5	1	1	2			1
Hurler-Scheie症候群	E76.0B	3	3					
Hunter症候群	E76.1A	62	12	11	29	3		7
ムコ多糖症Ⅲ型	E76.2A	9		1	6	1	1	
ムコ多糖症Ⅳ型	E76.2B	7	3		2			2
ムコ多糖症Ⅵ型	E76.2C	1	1					
β-グルコニダーゼ欠損症	E76.3B	2			2			
β-ガラクトシダーゼ-ノイミンダーゼ欠損症	E76.3C	3	3					
ムコ多糖症	E76.3A	29	9	6	9			5
ムコリポドーシス(以下、再掲)		12			6		1	5
ムコリポドーシスⅡ型	E77.0A	5			2			3
ムコリポドーシスⅢ型	E77.0B	4			3			1
ムコリポドーシス	E77.9	3			1		1	1
フコシドーシス	E77.1D	1						1

疾患名	ICD10	登録 人数	通常学 級	特別支 援学級	特別支 援学校	訪問 教育	その 他	無記入
高コレステロール血症(以下、再掲)		314	260			4		50
家族性高コレステロール血症(ヘテロ接合型、型不明含)	E78.0A	296	247			3		46
家族性高コレステロール血症(ホモ接合型)	E78.0C	9	7					2
高リポ蛋白血症II型	E78.0B	9	6			1		2
高リポ蛋白血症IV型	E78.1	23	18			1		4
高リポ蛋白血症I型	E78.3B	1	1					
家族性高カイロミクロン血症	E78.3A	2	2					
家族性低β-リポ蛋白血症	E78.6B	6	6					
レシチン-コレステロール-アシルトランス フェラーゼ欠損症	E78.6E	1	1					
hypoxanthine phosphoribosyl- transferase欠損症	E79.1A	2			1	1		
Lesch-Nyhan症候群	E79.1B	16	1		1	13		1
遺伝性若年性痛風	M10.9	7	5					2
adenine phosphoribosyltransferase欠損症	E79.8A	9	5					4
ホルフィン症(以下、再掲)		20	15			1		3
遺伝性コホルフィン症	E80.2A	1	1					
骨髄性プロトホルフィン症	E80.2B	10	8					2
先天性ホルフィン症	E80.2F	4	2			1		1
プロトホルフィン症	E80.0	2	1					1
ホルフィン症	E80.2G	3	3					
Crigler-Najjar症候群	E80.5	2	2					
銅代謝異常(以下、再掲)		248	207		3	3		2
ウィルソン病	E83.0A	244	207		3	1		33
メンケス病	E83.0B	4				2		2
リン代謝異常(以下、再掲)		177	138		2	3		34
家族性低磷酸血症	E83.3A	32	25			2		5
ビタミンD抵抗性くる病	E83.3D	145	113		2	1		29
α1-トリプシン抑制物質欠損症	E88.0A	1						1
アポ蛋白C-II欠損症	E88.8D	2	1					1
先天性アセチルコリンエステラーゼ欠損症	E88.8N	1				1		
グリセロールキナーゼ欠損症	E88.8T	3	2			1		
先天性高乳酸血症	G31.8B	11	5		1	2		3
脳・肝・腎症候群	Q87.8D	2			1	1		
骨疾患(以下、再掲)		901	635		36	40	9	14
軟骨無形成症	Q77.4	568	408		24	19		6
骨形成不全症	Q78.0	333	227		12	21	9	8
エーラーズ・ダングロス症候群	Q79.6	48	35		1	3		9
皮膚疾患(以下、再掲)		116	39		13	35	1	5
色素性乾皮症	Q82.1	71	9		13	31	1	2
白皮症	E70.3B	20	13					2
ハーマンスキー-パドラー症候群	E70.3C	2						2
致死性表皮水疱症	L13.9	1	1					
先天性魚鱗癬(以下、再掲)		22	16			4		1
非水疱型先天性魚鱗癬様紅皮症	Q80.9B	5	5					
シェーグレン・レーン症候群	Q80.9D	3				3		
水疱型先天性魚鱗癬様紅皮症	Q80.3	4	3			1		
道化師様魚鱗癬	Q80.9C	1	1					
先天性魚鱗癬	Q80.9A	9	7					1
合計(人)		3181人	2104人	157人	296人	47人	46人	531人
割合(%)		100%	66.14%	4.94%	9.31%	1.48%	1.45%	16.69%

Ⅲ. 資料：アンジェルマン症候群児を担当する
教師からの教育情報

【質問1】各学習における到達目標と指導方法、ならびに課題について

1. 教科領域学習

1) ことば、数の学習

「もの名前をきいて、写真を選ぶことができる」2枚の写真から、選ばせるようにした。初め写真をなかなか見ようとしなかったが、繰り返すうち見ることが出来るようになっていく。身近の物の名前(かばん、くつ、パン、牛乳など)はわかるようである。人物についても、練習中である。

- ・体の部位を言うと、正しい場所を表現できる。
- ・動作を表す言葉を言うと、体の動きで表現できる。
- ・日常使う物の名前がわかる。
- ・自分の気持ちを表現しようとして喃語のような言葉で、一生懸命しゃべる。

・○△□の型はめの学習(視覚操作)・・・やるのがわかりスムーズに取り組めるようになってきた。
・「○○ちょうだい」・・・模型(おかしや食べ物)を出し、同じ物を手渡すようにする。Ex.「みかんちょうだい」。同じ物を手渡せることは増えてきているが、集中力の持続が短い。
・プットイン課題・・・缶のふたやに穴をあけ、そこにプラ板で作ったカードを差し入れる。指先の使い方と目と手の協応がねらい。
・ちょっとした刺激で気が散ってしまうので、個別の学習では、教師とマンツーマンでできる環境が必要。つい立て等を利用し他の児童と空間を仕切っているがまだ、不十分。興味のあるもの(好きなキャラクターや小さいものをつまむこと)については集中して取り組むことが出来るので、できることを伸ばしていく指導を心がけている。

- ・コミュニケーション手段を増やす
- ①身振り・・・「トイレ」(下を押さえる)、「御願い」(手を合わせる)、「名前を呼ばれると」「手を上げる」、「呼ぶとき」「おいで、おいで」等→指導中
- ②発声・・・「ウン」→「ウンチ」または「オシッコ」、「ママ」「パパ」「ババ」「ワンワン」→顔を見て言うときもある→言いながら写真カードを見せる。
- ③カード(写真)・・・①「トイレ」の写真カードをもって見せる。②TVリモコンの写真カードをもってつけてもらう。
- ④ハンドリング・・・してほしいところまで手を引っ張ってつれていく。
- ⑤アイコンタクト・・・伝えたい気持ちを育てる。

・到達目標
日常生活に必要な単語や2語文を理解すること。
サインなどで補いながら、単語や喃語で要求したい訴えたりすること。
「どちらが多い」かを理解し、指示に従って多い方や少ない方を選択すること。
「1つ」「1つずつ」を理解し、指示に従って1つずつ選択すること。

・指導方法
絵カードやマカトンサインを取り入れ、選択させたり、模倣させたりする。
シャボン玉やろうそくの吹き消しなどで、唇の動き方や息遣いの学習を行う。
作業学習でビーズやおはじきなど、「1つずつ」つまむ学習。

・課題
サインが定着しにくい
気持ちにムラがあり、「1つずつ」の指示が通りにくく、何でも驚掴みしがち。
ことばで要求や訴えがうまくいかないで、友達をたいてしまったり、つばをはきかけてしまったりする。

- ・内言語 は豊か発語は数語(「バイバイ」「パン」「エビ」等)
- ・簡単は支持理解(「まっけて」「行くよ」「ちょうだい」等)はできる。
- ・1対1対応はできる。
- ・「1つだけ」はまだ完全ではない。「2つちょうだい」など「～つ」は難しい。
- ・簡単な絵本「3びきのやぎのガラガラドン」などは次にどうなるか予測したり、動作模倣したりして楽しめる。

(目)・サインとなる道具を決めて、それを触ったり、持ったりすることで、行きたい場所ややりたい活動などの自分の要求を相手に伝える。

(方)・サインとなる道具を決めて、自分から行きたい場所ややりたい遊びを選択し、相手に伝えていけるようにします。また、写真カードとのマッチングも重ねて行います。

(課)・5枚のカードから欲しい物を選んで教師に手渡すことが出来る。

・カードにないものに実物が近くにないものの要求は、「ウー」と声を出して手をたたき御願いのゼスチャーをするが、わかりにくい。(何を要求しているか)

○手話や動作言語などを用いた意志伝達の幅を広げる

・多くの人との関わりの中で動作言語で何とか伝えようとするため、表現方法が豊かになってきている。伝えたいという気持ちを大事にし、多くの人と抱え有る事が伝達の幅を広げている。中学になり、教科担任制で各教科で人が関わる事が有効だった。

○大小、上下、長短などの空間認識を高める

・達成感のある教材が有効であるため、パズルなど”できた”ことを確認できるような教材教具を工夫してきている。大小についてはかなり理解してきているが、位置関係上下左右などは難しい。

発語はない。
数も理解出来ない。

ことば(音声言語)においては『お願いします』、『ありがとうございます』、『終わりました』、『ごめんなさい』朝と帰りの挨拶は、今までの積み重ねもあって、ほぼ出来るようになっており、高等部でも継続しています。
しかし、音声言語のみでは、相手に性格に伝える事が困難であるため『ジェスチャーや発声などを通して、自分の気持ちを相手に伝える事ができる』ということを目指して取り組んでいます。
使用している言葉の中でも、明瞭なものもあり、与えられた作業や課題が終了したときに、「終わった」と音声言語と手拍子で報告する事に関しては、相手にもはっきり伝える事ができていると思います。その他にも「ママ」、「ぼぼ」(放課後に利用しているクラブ)、「先生」など普段からよく使っています。
数の学習においては、そののみを取り上げて学習しているわけではありませんが、作業学習に置いて、『～を〇個持ってきて』という支持に対し、正しく持ってくる時とそうでない時があるので、数の学習は今後取り組んでいく必要があると思われます。

「到達目標」

ことば: 絵た言葉のリズムを楽しみながら、簡単な絵本のストーリーを理解する事ができる。

数: 身近な具体物を、種類別に別ける事ができる。

「指導方法」

・主に、週2回の国・数の時間、または朝の個別課題の時間に指導。絵本は大型絵本を用意し、リズムカルに読むようにする。具体物の弁別学習はプリンカップと紙コップとか、日常身の回りにあるものを使用し、1対1でおこなう。

「課題」

・静かな部屋に1対1ではなく、教室で6～7人学習しているため刺激にふられやすい。

・ペグボードやおはじきを使用し、色の分別

・1対1対応

・用途によるものの理解etc

別紙の個別指導計画を参照

(教科領域の学習はしていない)

・理解できる言葉掛けを増やす事を目標としている。

・声掛けの雰囲気を感じ取り、自分の気持ちを立て直すなどの行動が見られるので、行動に移る時には、常に声掛けをし、行動と言葉が一致するように働きかけている。

・歩行時には、「イチ、ニ、サン」と声掛けをしている。

家庭と共通理解している個別の指導計画から抜粋しました。

・身近な物名前の理解

→二枚の写真や絵から教師が行う言葉の物を選ぶ。

→より多くの物の理解・用途の理解

・教師の指示で1～8までの数をタマリソで叩く、何月、何日、何曜日の確認。日付を確認したあとカレンダーにシールをはる。

・個別ではおはじきを使い、ペットに1つずつ入れていく(つまむ)

・リズム運動: 頭、肩、ひざ、ボンなどピアノの曲に合わせて手を動かす。

・給食に時におかずを並べて、食べたいものを自分から選ぶといったように、選択させる場面をつくることで、本人からの要求に応じて要求動作が増えるようにする。

・本人からみえない位置で、好きなおもちゃや楽器をならして、その方向に向かって歩行練習をすることで、本人の期待感を高める。

ことば:

到達目標・・・紙芝居などに注目し、興味を持つてみる事ができる。

指導方法・・・同じ内容の紙芝居を繰り返し見せる。

数の学習:

到達目標: 仲間を集め一対一対応の取り組みを通して「同じもの」「違うもの」を理解する。

指導方法: マッチング(絵合わせ)

ことば、数の学習はとりにくくありません。

トイレサインや「おねがい」の動作が的確にできるよう日常生活の中で意識されたい。

ことばや数の学習は行っていない。

発語を促すための指導や、そのための時間設定は特にしていません。数の学習についても同様です。その分、日常生活の中での言葉掛けは多くする事を意識し、ちょっとした待ち時間のカウントダウンや数称(ex. 歯磨きで数えながら・・・)などを取り入れて指導に当たっています。

自ら発する言葉には、「ぼつぼつ・・・」「あー」(特に目的性を感じない)

身振り手振りだけでなく、言葉そのもので理解出来ていると思われる言葉。トイレ、お風呂、寝るよ(部屋に行く)、食事や外出は状況との複合により理解している。(外食などで、一度行った事のある店は記憶している。母)

児童の実態から課題を設定する難しさがあるが、人が大好きでコミュニケーションがとれるので、「おはなし」「そざい」「うんどう」「うたいリズム」日常生活全般においてやりとりを大切にしながら表現する力、働きかける力等将来へ繋げていく取り組みを行っていく。

〈ねらい〉身振りやサインを使いながら大人や友達とコミュニケーションをとる。

〈指導内容〉・要求をカード(写真)で伝える。

- ・要求をサインで伝える。
- ・色を意識し、弁別の理解につなげる
- ・人に伝えたい気持ちを高め、発声を増やす
- ・1対1対応で物を操作する

〈課題〉・意欲を高めながら、自分の活動に集中する。

(目標)・身の回りの物の名前が分かる。

・好きな物を選び、楽しむ事ができる。

(記録)・興味のあるキャラクター(アンパンマン)などイラストを見て持ってくる事ができる。

- ・ことばは、「アンパンマン」と話す事が出来る。
- ・大きめ目のシールを一人ではがす事ができ、紙に貼る事ができる。
- ・絵本の読み聞かせや、ビデオ、演劇など興味を持って見る事ができる。

特定の時間割を組まず、生活全般で指導(朝の会等)

本児の場合小2春ころまで、1歳半の節目の手前で長らく助走していた様に観察されました。コミュニケーション能力や人への親和性の高さに比べ、見通しのもてなさ、こだわりが気になりました。注意の転導性の強さが、認知面の成長のネックになっているのでは仮定し、二つのものを見比べる課題にとりくみました。小2の夏頃から少し落ち着いてものごとを見る、考えることができるようになりADL面も向上しました。

(小3くらいまでの目標です)

認知

- ①他者との間で、様々なもの(こと)を共有して、三項関係にそったやりとりを楽しめるようになる。模倣を促す。
- ②2つのもの(こと)を関連づけてとらえられるようになる。ex.積み木をつむ、カレー皿にスプーンを配る。
- ③分割・弁別・基本5色くらいの弁別ができる。

- ・自分の持ち物、友達を持ち物がわかる。
- ・おもちゃや学習用具を種類別に片付けられる。

指導方法(多様な障害特性や発達段階の子ども集団の中での学習ですので、学校生活の大半はどの子ども包括できる学習活動をくんでいます。本児に対する1対1の個別指導は15分×4回/Wです。)

集団:読み聞かせ。遊具遊び、室内遊び、音楽、図工、体育・・・生活。本児が興味をもったり、共感を求めてきたりするとき「そうだね～だったね」「びっくりしたね。それは〇〇だよ。」等共感的に応じたり説明したりする。

個別:積み木、ブロック～つむ、ばらす、色を分ける、2つの皿に分ける、入れかえる等。日用品の弁別分類～スプーンとフォーク、おさらとおわん、絵本とおもちゃ等

目標)・歌、遊びや手遊びを通じて、友達や教員とのふれあいを楽しむ

・絵本の読み聞かせやパネルシアターを期待感を持ちながら聞く、興味を持ってパネルを

・1対1等認知の基礎の定着

指導方法)・歌遊びや、手遊びをやりたいという気持ちが持てるように演じて誘う。

・場面転換などでは、感情を込めて声を出し、物語に引き込まれるように配慮する。

・楽しんで操作できる題材を用意する。

・友達の活動を見てから行う。

・繰り返し活動をおこない、理解の定着を図る。

課題)・興味を持ってない課題や内容の時に、注視する時間が短い時があった。

・絵カード(2枚)から1つを選択する。(2枚のカードを示し「〇〇を下さい。」ろ言う。指導者の顔色を見て判断する様子が見られ、本当に理解して選択できているとは言えない。)

・パズル(20ピースまで)(ストップウオッチのスタートを自分で押し、完成したらストップを押す。集中して、短時間で仕上げる事ができるようになった。)

・ブロック等を1つずつ提示し、箱に入れる課題を行っている。ブロックを持っても「箱に入れる」という指示がなかなか通らないことが多い。入れるべき箱へ注意が向くように言葉かけや指さしをしている。「目と手の協応動作」の確立をめざしている。

・面と向かって声をかけると顔をそむけて、目が合わないことが多い。そのため、何をするにおいても、まず指示を出している人の顔を見る。次に活動する物(道具など)を見るように促している。

目標:

・理解言語を増やす。

・声や言葉で自分の気持ちを伝えることができるようになる。

取り組み:

・簡単な節にある物語を見聞きする。

・身近なもの、体の部位の名称、具体物の一致

・写真カード等を使い見通しをもって活動する。

- ・物(写真、絵カード)を場所別にして仲間分けする。
例 学校 店家
ランチルーム 体育館 保健室
- ・マカトンサイン(身近な物、日常動作、天気 等)
- ・なぞり書き

目標:

- ・持続して取り組めるように設定し、学習の達成感や見通しを持たせる。
- ・手や指先を使い集中力や目と手の対応能力を高める

課題:

- ・玉や輪の棒通し
- ・ピンをスポンジに刺す。
- ・小さなおはじきやビーズを容器に入れる。
- ・三角コーンや輪重ね。
- ・フックに輪をかける。

- ※・1つ1つの課題の時間を短くすることによって、注意が持続できるようになる。
- ・終始がはっきりしたものや、やることを見て理解しやすい課題が取り組みやすい。

- ・色やイラストで机やロッカーに目印を貼ることで、自分の机やロッカーの場所を覚えることが出来ました。
- ・手遊び歌が好きで、「こぶじいさん」や「一般橋こちよこちよ」を好んだ。好きではない歌の時は笑ったりせず、興味のある歌の時は全身でうれしい気持ちが表現できる。
- ・いろいろな玩具の中から好きな玩具を選ぶことが出来る。カラーボールが好きで握ることが出来る。

〈到達目標〉

- ・簡単なお話を見たり、聞いたりして、楽しむ。
- ・手指の操作性を高める。
- ・色や形、大きさの違いに気付く。

〈指導方法〉

- ・お話を聞く。「ぞうくんのさんぽ」「ふしぎなたまご」「ころちゃんはどこ」「3びきのこぶた」
- ・からだあそびや手遊びをする。「できるかな」「にこにこぶんぶん」「頭型膝ぼん」
- ・簡単なマッチング、形、色分けをする。
- ・型はめ、ペグさし、シール貼り、スキルブックなどをする。

〈課題〉

- ・簡単な模倣をする。
- ・ボディイメージを養う。
- ・手指の操作性を高める。

言葉ではなく、自分の意思表示のための自分なりのサインの獲得や要求を絵カードや写真で行う(サインはあるのだが、サインを増やすのは難しく、意思表示はしているものの、全て同じサイン「ちょうだい」になってしまう。絵カード、写真は持たせても投げてしまう。しかし、担任の顔写真を見せると、担任の方を向く)。数については難しい。(さいころ等を利用したが、さいころをころがしてそれで喜んでしまう)

- ・写真カード(身近な人、身近な物、場所)
- ・絵カード(キャラクター)
- ・赤いボールと青いボールを赤箱、青箱に入れる。
- ・棒さし、型はめ
- ・枠の中にブロックを1つずつ入れる。

(到達目標)

- ・落ち着いて学習に参加し、課題に気持ちを向けやりとりができるようになる。
- ・絵本等の絵やお話に興味を持ち、注視できる。
- ・簡単なストーリーを理解し、絵カードやパネル、小道具等の操作を楽しむ。
- ・身近にあるものの形の違いに気付く。身近にある物の数量に関心を持つ。

(指導方法)

- ・手先を見たり、課題に気持ちを向けられるよう、個別に働きかけていく。
- ・お話しは視聴覚機器を利用し、大型にしたり、パネルシアター等で興味・関心を持てるように工夫する。
- ・劇学習は本人が好きな音楽や動きを取り入れ、繰り返すことで本人が見通しが持てるように配慮する。
- ・数量や図形を意識させるために、具体物に触れて実査に動かす経験をたくさん詰めるようにする。

(課題)

- ・課題に向かう、集中が短い。好きなものにすぐ興味がうつってしまう。

ことばに関する学習としては「みるきく」(絵本の読み聞かせ)「朝の会」(一日の予定、出席)などの教科を中心として、生活に身近な平易で具体的な話を学習している。本人が喋ることはなくても、ことばがき、かけとなって次の行動に移れることを主な目標としている。絵本の中で「さみしい」という言葉があれば、静かな雰囲気、本の中のひとりぼっちのキャラクターなどを指し示す。「笑う」という言葉があれば教員が全員で笑い声をあげたり、笑っている絵を提示するなどして、理解を促している。一日の予定では各教科のイメージカードを作り、それらを提示しながら「給食!」という語を理解しやすいよう指導している。数については難しいようで、課題とはなっていない。それでも「多い、少ない」といった概念は感じているように思う。

ことば(到)・簡単な物の名称と自分の名前カード(名札カード)を正確にとれるようになる。

・簡単な物の名称に近い発声ができるようになる。→文字数 りんご

(指)・課題の授業で呼名の歌を作り、自分の名前で名札カードをとる練習。

・課題のゲームや絵カードを見ながら教員の発語と一緒にまねて発声させる。

数……数称らしき発声は教員と一緒にできるが、数の概念はまだ難しい。「1つだけとって来て」という声かけが難しい面があった。

到達目標(ことば)

・簡単なコミュニケーションをとることができる。

指導方法

・紙芝居、パネルシアターを見聞きする。

・触れ合い遊び やりとりのある手遊び歌。

・サインの獲得 おじぎ(いただきます、おはようございます、御願います、ごめんなさい等)に使用
トイレ(股を押さえて「アー」と訴える)

到達目標(かず)

・作業的な課題(プットイン)に取り組む事ができる。

・目と手の協応する力を伸ばす。

・隠された物を探し出す。

指導方法

・積み木、ビー玉等のプットイン

・紙に挟んである洗濯ばさみははずし、洗濯ばさみを容器に入れる

・探索行動(袋の中に隠されたおもちゃを探し出して遊ぶ。教室にある自分のきな物を探し出す。)

課題

文字、絵カード、数等に対する意識・関心はあまり見られない。好きな物・興味ある物を取り入れた学習中心に行っている。数については将来軽作業につながればと思い、作業的な課題を中心に行っている。

●頭部の部分の名称を、手で押さえながらやっているが、最初に覚えさせようとした「みみ」という動作で耳をつかむことから抜け出せず、「あたま」と言っても耳を押さえてしまう。言葉と対象が結びつかない、結びつけきれない。

しかし、教室に入ってきた時、「ドアをしめて」と言うと、閉めてくれる。こちらの動作を見て、反応しているのかもしれない。

帰りの教室の窓締めるとき、「まどをしめてください」と言うと、窓は閉めようとするが、戸締まりという意味が十分には理解で来ていない様で、言葉に反応し、窓を動かそうとするが、それで終わり、どうしていいのかわからない。手伝ってやらないと、鍵までは閉められない。

●数の学習での、指を使って「いち」と言っても、指を一本出せない。指をそれぞれ独立して動かす事が難しい。

一対一対応の学習として、直径8センチくらいのまるい厚紙に、直径2センチくらいのおはじきを対応させる学習では初めはひとつの厚紙に2つのおはじきを置いたりしていたが、次第に見ながら1つの厚紙に1つのおはじきを入れるようになった。ただ、かんぜんではなく、時々、1つの厚紙に2つのおはじきを置く事がある。集中している時にはないようである。

形・色の違う小片を、形・色の種類に応じてベグ刺しする練習をしたが、初めはまったく分ける事が出来なかった。何回かの練習のあとに次第にその意味が分かったのか、同じ形・色のものを同じベグにまとめて刺す事ができるようになった。しかも、ランダムにおかれた小片の中から、同じ物を連続的に選び出す事から、形・色の分別は出来ている様である。

大小は認識しているのかもしれないが「大きい方」といったことは難しい。

・「コップを持ってきて」や「ロッカーからタオルを持ってきて」などの言葉掛けを理解し応じる事ができた。

・数を数えたりすることは難しいが、形や色のマッチングや分別は個別対応で集中できた時は応じる事ができた。

ことば

・絵カードとともに口形模倣練習を重ね、母音の発声ができる。

・絵カードと言葉かけにより、発語を増やす。

・身振りやサイン、カードのやりとりで表現できる語彙を増やす。

・痛い所等身振りやサインで伝える事ができる。

数

・一枚の皿に1個の具体物等簡単な一対一対応ができる。

・2~3種類の色や形の弁別ができる。

全般に

・集中して課題に取り組める時間を増やす。

〈目標〉

・興味関心のある教材を通し、楽しみながら、見る・聞く・触れるの力を養う。

・見る力や手指の操作性を高め、集中力をつける。

〈指導方法〉

・カードと具体物のマッチング

・作業学習における物の分別

目)理解言語(表出・内)を増やす
数や色、物の名前など基本的なことに興味を持つ。
グループの生徒と活動を楽しむ。
指)絵本の読み聞かせやペープサイと、お話し遊び
写真カード、積み木パズル等を利用した継続的な指導
具体物、体験を多く取り入れた活動(魚つり、シューティングゲーム、校外活動
課)理解できる言葉が増え、指示も殆ど理解できる。
表出言語を増やすこと(要求を今以上に伝えられる様に)。数の理解は今後の課題。

〈目標〉

- ・教員や友達との関係を豊かにしながら活動にしっかり気持ちを向け、そこに向かって行く力を育てる。
- ・人や物に注目し、見たり聞いたりする力をつける。

〈指導方法(内容)〉

- ・歌、リズム
- ・色(2色)
- ・目と手の協応
- ・見る活動

〈課題〉

色の弁別学習は、赤、青の2色は、ほぼ確実に理解できました。3色は、今後の課題です。気持ちを向けて、様々なことに取り組めると力を発揮できると思われます。

〈指導方法〉◎周囲からの刺激に反応しやすいので、刺激を遮断するため、ついでに(段ボール製、いすに座って頭の
高さ)を用意する。

★ことは

〈到達目標〉ことばと物のつながりに気付かせる。

〈指導方法〉◎色々な場面で、常に物の名前を意識的に示す様にする。特に物の名前を学ぶ工夫をする。

- ・「コップ」「のり」「くつ」「でんき」など、はっきり、ゆっくり、短く、言う。
- ・ふたつきの2つ箱を用意し、それぞれコップと他のものの写真を貼る。コップの箱には実物のコップを入れ、もう片方は空にしておく。「コップ、どっち?」と選ばせ、正解したらコップに飲み物を入れてあげる。

〈課題〉・理解できる物が不植えてきた。

- ・まだ当てずっぽうのようである。この方法が効果的かどうか、もう少し続けてから判断した方は良いと思われる。

★数

〈到達目標〉「1つずつ入れる」を理解する。

〈指導方法〉◎大好きなプットインの形式を活かし、積み木などを容器に1つずつ入れる活動のバリエーションを工夫する。

- ・入れる物:積み木、どんぐり、果物や野菜の模型等
- ・容器:製氷皿、箱に仕切りをしたもの、ペットボトルのふた等
- ・ぴったり入る大きさから始め、大きめの箱へと進める。2つ入る大きさでも惑わされず「1つずつ」を意識させる。
- ・種類を織り交ぜると混乱するので、1回には同じ種類のものだけを使う。

〈課題〉・ぴったりの大きさの場合は、やり方を理解し、すばやくできるようになった。

- ・給食の準備では、おぼん、フォーク等を1つずつ配れるようになった。
- ・ゆったりのおおきさの場合は1つずつ手渡し、正しく入れられる様支援が必要である。自由にやると入れるだけ入れてしまう。
- ・皿に載せる等の、箱に入れる以外のやり方は、給食準備のほかにはあまり好まない様だ。

〈内容〉

- ・運筆練習

〈目標〉

- ・始点、終点を意識して線を引く。自分の名前を意識する。

〈指導の方法・手立て〉

- ・色や形の同じ者同士を結ぶことを意識して線を結ぶ様にする。

〈内容〉

- ・数の基本

〈目標〉

- ・一対一対応を確実に行う。
- ・数を数え、数字に親しむ。
- ・色・形・大きさなどで分類する。

〈指導の方法・手立て〉

- ・具体物を並べたり、数えたりする。
- ・具体物やカードを操作し、マッチングや分類を行う。

特に取り組んでいません

(目標)ことば: 言語理解(聴覚)とその模倣、ことば: 自己の発信をうけて指導、支援者が意味づけをし、行動できる様にする。

数: 空間、時間認知を促進する。

(方法)言葉の基礎を育てる。自分の身体部位の理解。「ことば」を保存し、結びつける力を育てる為に、「視覚一運動の連合」「視覚一運動の転移、動きの模倣」「聴覚一運動の連合、音に合わせて動く、音の約束で動く」

目標・・・学習に集中してとりくむことができる。

指導方法・・・絵本の読み聞かせ、色や絵カードによるマッチング、ペグさし、家族の写真を使つての発語の促し、パズル(2ピース)

課題・・・絵本の読み聞かせを通して、あいさつや歯磨き、帽子などの動作が出来るので、今後はサインやジェスチャーで意思表示できるような取り組みをしたい。マッチングは2枚ずつカードを提示し合わせる練習をし確実にできるようにしている。ペグさしは手元を見る様に促している。本人が興味を持って、集中して取り組める教材を選んでいきたい。

(ねらい)・声かけや具体物の提示により、見通しをもち集中して活動に取り組む。

- ・粗大模倣ができるようになる
 - ・見たり、聞いたりする力をのばす
 - ・物の違いや、同じなどの理解をすすめる
- (指導内容)◎ことば、かずの授業時間内
- ・呼名、名前カードの一致手遊び、リズム体操
 - ・絵本の読み聞かせ
 - ・簡単なストーリーをりかいしてのお話あそび
 - ・1対1対応
 - ・色、物の弁別
 - ・色、物の選択
- ◎生活全般の中で
- ・給食の配膳活動
 - ・あそび

(課題)一つ一つの課題に集中して取り組む

発語はないが「ママ」「パパ」などの喃語がある。また、何か伝えたい時は、表情、発声、身振りなどで気持ちを表現しようとする。様々な学習の場面では、メインティーチャーに気持ちを向け、学習内容を期待する様子がうかがえる。日常的な指示理解はある。

本児は重度の知的障害をあわせもち、学習指導要領特例による過程2において学習している為、教科領域学習は行っておりません。

(目標)・ことば、数という意識はできていないが、グループ学習では色々なマッチングに取り組んでいる。同じ物の理解を増やしていくことで、絵カードや写真でのコミュニケーションへ発展させていくことを目標としている。また、ルールを決めて行うことで周りの状況を判断する力をつけると共に、目標物や具体物を大きくすることで見る力や集中力を持続する事を目標にしている。

(指導内容)・色マッチング

まずは、色を意識することから始めている。3色の赤、青、黄の段ボール箱(蓋付き)にボールやカード、さいころ(大)等を入れる。色の識別は難しいが、一つだけ同じ色の箱を空けておくことで確実に入れることができるので、色を意識して見る様に心掛けている。また、箱に絵カード(赤→とまと、黄→バナナ等)を貼り、同じ絵カードを持って箱に入れる取り組みは、絵を注意して見ている時は正解率が高い現在は2択で行っているため、選択肢を増やしていきたい。

・食器マッチング

このマッチングはお盆に載せたお皿、コップ、フォーク等を所定の位置まで運び、お盆や食器を同じ食器の上に重ねて片づける活動である。毎回、お皿の形は違う物を選んでいる。大小の区別は難しいので、大きいお皿の上に小さいお皿を重ねてしまうと終了してしまうこともあるが、小さいお皿の上に大きいお皿を重ねると形が合うまで続ける。フォークやコップなど、形に特徴のあるものは同じ場所に片づけられる。

型はめボードやビー玉をペットボトルに入れる、ペグ挿し等の活動は集中してできる。

・手渡す物は噛んでしまったり、投げてしまったりして、興味を示さないことが多かったが、繰り返すうちに身近にあるものの写真や絵カードに興味を持つ様になり、絵合わせや物合わせなど楽しめる様になってきた。

・興味のある物、絵本、つかみやすい大きさのボールなど手を伸ばす様になってきた。教師と一緒に1～3までの数にあったペグを穴に入れる活動を楽しんできた。

(目標)・生活の中で理解できる言葉を増やす。
 ・具体物の量や数の変化、時間の経過を感じる。
 (指導方法)・連絡帳に書かれた出来後や絵本、写真カードなどを通してやりとりを楽しむ。
 ・型はめや配膳された給食の量を選択するなどの中で大・小、多・少の違いを意識する。
 ・数を数えたり、砂時計を見たりすることを通して、靴の着脱や歯磨きなど、日常生活の中で時間的な見通しを感じる。
 (評価・課題)・コミュニケーションでは、連絡帳・絵本・家族で楽しんできた写真・行事の写真やパンフレットなどを通しておこないました。分かる言葉も多く声や動作、表情で自分の気持ちを伝えながら、人とのやりとりを楽しむことができました。
 ・写真カードでは、要求したい事柄があると、写真カードをめくって指さすなどする場面がみられるようになってきました。これからも、写真カードでの会話を継続していけるといいと思います。
 ・数と量では、仕分け箱にボールやストローを一つずつ配ることなどを行ってきました。一つのしきりに一つの物だけ入れる活動は、給食時のストロー配りや配膳にもつながることを意識づけながら行うと、椅子に座っての活動よりも、移動を伴った「持つ→仕分けの箱まで歩いていく→入れる」活動に興味を示しながら取り組むことができました。
 ・時間的な見通しでは、「腹筋20回、ゴムホース通し25個」完了したら終わりになる取り組みなどを通しておこなってみました。どちらも次に控えていたリラックスできる「ピーナツボール運動」を期待し「早く終わりにならないかな」と言った、時間的な見通しを感じながら取り組む様子が見られました。

・紙芝居や絵本の読み聞かせは、集中して読み手の方を見て集中して聞くことができます。また、ストーリーの変化に応じて、喜んだり興った奮したりなど反応をみせることがあります。
 ・指示や説明を理解し、行動することができます。指示に従った行動がとれます。
 ・学校内での発言は「パパ」「ママ」「ンマンマ」くらいですが、「パパ＝男性」「ママ＝女性」という概念が本人に定着しているわけではありません。ただし、「ンマンマ」は食事やおやつに関わるキーワードで、食事・おやつの「食べたい」「おかわり」などの時に使います。
 ・数、色の認識はできておりません。

(目標)・実物と言葉との一致を図る。
 ・返事や発語を促す。
 ・初歩的な数量について知る。
 (指導方法)・生活のあらゆる場面で絵カード等を使って言葉を獲得させる。
 ・簡単な絵本で言葉に関心を持たせる。
 ・言葉がけを多くし、発語を促す。
 ・生活のあらゆる場面で大きさ、かさ、形などに興味関心をもてるようにする。(遊びの中にパズルやベグなどを使う)
 (課題)・絵カードや写真カードを使って、言葉掛けを多くし、発語を促す。
 ・生活の中で、数の教え方や、形、大きさなどを意識させていく。

積極的な授業参加姿勢あり。示された写真カードのものと同じ物を少し遠くのところから取ってこれる。マッチングは4つ位のの選択肢だと完璧。絵本の読み聞かせは集中して聞く、見る。場面の内容を把握し期待してしまう様子も見られる。

〈目標〉簡単な指示がわかる
 〈方法〉物語の学習を通して動物や物、身体部位などの名称を覚える。動作かすることでボディイメージをつかむ等
 〈目標〉色や形の弁別ができる
 〈方法〉型はめ、マッチング等
 〈課題〉手元を見ることが難しい。できそうな課題でもピンポイントで注目することができるようにする。

言葉がけや具体物の二者択一で大小や多少の理解を学習している。集中して学習できる時間を延ばすこと課題としているが、興味を持てることにはとても良く集中して取り組めるようになってきている。「手を合わせる」依頼の意思を伝えるサインやクレーンが確立してきたので「何を」の名詞を入れての2誤間のサインを練習している。一緒にサインをすることから始めている。

・要求がある時は、相手に手をさしのべて声を出て呼ぶことができる。
 ・人の行動に関心が「高く、自分から進んで関わろうとする。」「パーパー」「マーマー」「アー」「ペー」「ダ・ダ・ダ」の発声をし、感情を表す」
 ・10個ぐらいの1対1対応ができる。
 ・集中できる環境があれば、食べものや身の回りのものを理解して、写真カードをとることが出来る。
 ・リング通し、ベグ差し、コイン入れ、型はめ等手元をよく見ながら取り組む課題を行っている。

(目標)お話しに興味を持ったり、見たり聞いたりする、手遊びや歌遊びを楽しむ、友達や指導者と一緒に劇遊びを楽しむ
 (指導方法)歌やペープサート、人形等の具体物、体験的な活動を取り入れて、楽しく、わかりやすい点に留意した指導になるようにしている。
 (課題)お話し遊びに関して興味があり、席に座って学習の展開を見守ることができる。手遊びや歌遊びは、雰囲気は楽しんでいるが、模倣できない。ペープサートや人形の登場と動きを楽しめるが、お話し展開は理解できていない。劇遊びはダイナミックに楽しめるが、身体を動かすことそのものを楽しんでいる、色のマッチングはの歌遊びも行ったができない。

到達目標

- ・身近な人や物の名前がわかる。
- ※日用品(のり・はさみ・いす・かさ・ランドセル・クレヨン・・・)
- 食べ物(くだもの:りんご・みかん・バナナ・パイナップル・・・)
- (やさい:トマト・ピーマン・キャベツ・にんじん・・・)
- (その他:おにぎり・シューマイ・ケーキ・・・)
- 動物(ライオン・キリン・トラ・ワニ・ぞう・いぬ・ねこ・うさぎ・ぶた・うし・うま・しまうま・・・)
- 友達や先生の名前(・・・・)

・1や2の数について、カードや実物のマッチングができる。

指導の手立て

- ・ビッグ絵本等、視覚的に注目しやすい教材を用意し、お話を楽しみながら物の名前を確認したり、数を数えたりする活動を取り入れていった。
- ・マッチングのプリントや教具を数多く用意した。身近な物の名前を教師が声に出して示すことで、※写真カードや絵カード、実物とのマッチングができるようになった。歌を歌ったり、「トン」「トントン」「トントントン」と音とすりあわせて楽しい雰囲気数をかぞえたり、買い物ごっこを中心にお金をかぞえたりする学習を中心に、見本を見せることで模倣できるようにした。

課題

・少ない練習でマッチングができるまでに到達できるが、繰り返しの練習を好まず、常に新しい物に興味を移す。確かな定着を図る為には、時間をおきながらの工夫が必要である。繰り返しのサイクルが空きすぎても、できていたものができなくなっていることが多い。1対1での指導が不可欠である。

実践2. プロフィール2) 認知、感覚コミュニケーションのとおり

<到達目標と指導方法>・絵本読みや、やりとり遊びなどの活動を通して身近な事柄への認識を深める。

- ・朝の会カード、時間割カードなど、身近な内容を理解する。
- ・仲間分けなどの活動を通して色や形への認識を深める。
- <現在できること>・1日の授業や生活の見通しをもって過ごすことができる。
- ・その日の学校で印象に残った出来事を「終わりの会」で伝えたり、家庭に帰ってから母親に伝えることがあった。
- ・同じ色のマッチングができる。黒のマカトンサインが示せる。
- ・いす取りゲームやしっぽ取りゲームなどの簡単なルール遊びが出来、勝つための知恵(工夫)ができる。
- ・対比して大きい方を遊び取ることができる。
- ・絵本の内容を理解して、楽しみながら見ることができる。楽しめる絵本の数がどんどん増えている。(「怖い」「鬼」「ドキドキ」など)
- ・2分割の絵カードを合わせて完成させることができつつある。

○到達目標・・・要求や要望がある時に声を出して、自分の要求を伝える。

○指導方法・・・牛乳が欲しい時は、「牛乳」と横で言って声をださせられる様にしている。何か落ちた時は「取って」と横で言って、声を出させる。何か欲しそうにしている時は「ちょうだい?」と横で言って声を出させる。

○課題・・・数についてはまったく指導が出来ていない。

・名前を呼ばれて返事をしたり、毎日の生活で使っている物の名前を聞いて持ってきたりすることができる。

・調理の授業で食材の数を数えたり、体育の授業でボールの数を数えてたりしているが教師が数を数えるのを一緒に聞いている。

・動物、くだもの等のカード取りをしながら名前を発音する。・・・不明瞭である。

・物の名前を言ったカードをとる。一練習中、難しい。(バナナ、みかん、いちご、いるか、うさぎ)

・カードと同じ実物を取る。一練習中、学習に使う物は理解している。(えんぴつ、さし、筆箱、ボール、帽子等)

・教具の発する単語(物の名前)をまねしながら言う。

・「一つちょうだい」をサインで表す。

・アンパンマンの絵本の読み聞かせをすると「アンパンマン」と絵を見て発音する。

・アンパンマン、パイキンマンを指差しできる。

・「ごんぎつねの」ごんを指差し出来る。

〈目標〉・自分の名前カードを選び取ることができる。
 ●具体物と具体物のマッチングをすることができる。
 ■パネルシアターに注目することができる。
 〈指導方法〉・名前の上部に顔写真をつけた名前カードを使用し、2択で取り組む。2枚のカードを取ってしまう為、左手を押さえると、右手で自分の名前カードを選び取ることができた。
 ●本児の好きなバナナの模型を使用。教員がバナナの模型を示し、「おなじものをください」と言葉掛けすると、「バナナください」の言葉かけだけでバナナとりんごからバナナを選び取ることができた。
 ■CDをかけながら、パネルの操作をする。本児が好きな言葉等を交えながら興味をもてるよう抑揚をつけて演じる。いずに座り、パネルシアターに注目できるようになってきた。
 〈課題〉写真カードと具体物のマッチングなどマッチングの理解を広げていくこと。

教科としての授業は行っていないが、いろいろな場面で言語の表出が難しいので、受容面に重点をおいて指導している。指導方法としては写真や絵カードを用いたり、繰り返し学習することで、ことばだけの指示で少しずつ行動できるようになってきている。

ことば・・・文章での理解は難しいが、日常よく使う単語の意味はわかっている。人の名前も家族や親しい人はわかっている。禁止の言葉がわかり、泣く表情になる。
 数・・・数の概念は難しい。具体物と写真のマッチングはできる。物の位置はよく記憶していてどこに物をしまっているか、よく知っている。

(平成20年度長期目標)・日常生活でよく使う言葉が分かり、言葉を聞いて行動に移すことができる。
 ・お話にでてくるものに目を向け、お話を聞くことができる。
 ・マッチングの意味がわかり、提示された物と同じ絵や同じ色を選ぶことができる。
 「ことば・かず」の学習時間と「朝の課題」として学校生活全般で取り組む。色の弁別課題や写真と実物のマッチングなどの課題に取り組んだ。「ことば、かず」の授業では、大型絵本やパネルシアターなどで歌をはさんでお話を見聞きし、その後一人ずつ前に出てお話になんだ課題をするというやり方で取り組んだ。いずれも他の友達をしている様子をよく見てやり方を理解し、積極的に取り組むことが出来ている。しかし、本児が興味をもちやすい内容を考えて取り組んだが、最長5分程度のお話でも、はじめから終わりまで集中して見続けることは難しく、他の友達に声をかけたり、手をしたりすることが多いのが課題。

児童が好きなパンを食べる時は小さくちぎって一片ずつ器に入れて渡しています。一度ずつ食べ終わって空になった器で遊んでしまうこともありますが、教師が指示して「これ、ちょうだい！」と言葉をかけると教師に器を返そうとして、器を持つ手の力をゆるめ渡そうとすることができました。

・理解言語を増やすことを目標にしています。
 ・学校生活全般において「あける」「閉める」など行動を言語化して覚えやすくしたり、実物の名称をそれを見ながら言語化して、本児の理解を促しています。

○職員の話しかけを聞いたり、絵本や写真、VTRを見て楽しむことができる。
 ・図書室を利用し、いろいろな本を読み聞かせる。
 ・絵本や絵カード(写真)、VTR等、本人が見たい時に自主的に見られるよう教室の環境を整える
 (課題)発語「ババババ・・・」があるので、あいさつや要求のばではせいするように、こちら「ババ・・・」と言って促したが、他具体的な言語(発声)の指導はできなかった。
 ○形や色に注目して物を分類することができる。
 ・プリントへのシール貼り
 ・ペグ(おはじき)入れ
 ・カードと具体物の対応
 (課題)カードと具体物の対応ができる物もあったが、色や形を見て分類することは難しく、職員と一緒にとりくんだ。

「しおり」「しーちゃん」「富田さん」という呼び方に対し顔を上げて呼んだ相手の目を見る。「行こか」「立とか」「歩こか」という声かけに対して手を伸ばして掴まり立ちしようしたり車椅子から身を乗り出す。絵本「はらぺこあおむし」で穴から顔を覗かせるあおむし人形を注視することが出来、自発的に手を伸ばし指で掴んで引き抜くことが出来る。これを飽きずに繰り返すことが出来る。前で順番に何かをすることがわかっている、呼ばれると「自分の番だな」という様子でさっと立ち上がる。(例えば自分の顔写真のついた人形を黒板に貼ることがわかっている人形を見せられると立とうとする。

〈指導内容〉①お名前呼び・・・お名前を呼んで、返事(発声、手を重ねるなど)ができるか。正面から関わると目をそらすことが多く、集中することがなかなか難しいですが、調子が良いと、発声したり、先生の手を重ねることが出来ます。
 ②くすぐり遊び・・・教員や遊びに気持ちを向けて「もっと」という要求を表現できるか。体を触られたり、自らの動きを妨げられることはあまり好きではありません。でも、気持ちが高揚している時は、笑顔で応えることはあります。「もっと」という表現はまた難しいです。
 ③見る活動・・・エプロンシアター、パネルシアター、などを集中して見続けることができるか。見る活動はとても大好きです。どんな内容のものでもよく集中して見ていて、動きを楽しんでいます。手を伸ばして掴もうとしたり、積極的です。
 ④遊具遊び、やりとり遊びなど・・・体や手を使う遊びを通して、要求を出す。道具遊びは大好きで、「もっと」が表現できます。槍問い遊びは「ちょーだい」に離して渡そうとする様子が見られることもあります。

<p>プロジェクターやパソコンを使用しての絵本読みを行っていました。自分がスイッチを押すことで画面が変わる(ページが次のページに変わる)ということを理解し、積極的に手を伸ばしていました。</p>
<p>発語が無いので、グループ学習、教科名「つくる、あそぶ」の中で意思表示の伝達、コミュニケーションをとることを目標に指導している。 指導方法: 台車遊びやボーリングなどの遊び一仲間を意識させる。 感触を楽しむ作品作りー感覚を刺激する対象物を見る練習 腹話術人形 意思表示伝達の方法として声を出す。手を使う等に目的意識を持たせることが課題である。</p>
<p>・カードと実物のマッチング、同じ絵柄のカード同士のマッチング 形の認識(丸、三角、四角) 色の識別(黒、赤、青、黄)→2~3色 ことば、かずの学習時間にカードを使用して学習する他、給食の配膳の時に、牛乳の絵カードをお盆に1枚ずつ配り、その上に牛乳を置いていく活動を行う。 「おはよう」「いただきます」「ごちそうさま」など簡単な言葉の口形をまねる。</p>
<p>特別活動を除くと「日常生活の指導」の他に「自立活動(からだ)」「自立活動(かかわり)」の自立活動を中心とした教育課程となっています。 別紙の日常生活の指導 年間指導計画を参照のこと</p>
<p>到達目標 ・色や形の初歩的な概念を学ぶ 簡単な弁別ができる(合わせる 分ける) 手指の巧緻性を伸ばす 指導方法(生活の中で) ・本児のシンボルカラーを「赤」と決めて、ロッカーやノート等の名札を赤色で統一し、荷物の片付け等を通して赤色を認識させる。 ・日付けや時間割カードの色カードを合わせて、ますの中に貼る。 (個別学習の中で) ・紙コップの色分け、積み木の形分け、型はめ ・ペグさし、コイン入れ、選択バサミ留め ・お天気シール貼り ・線引き、色塗り 課題 ・ひとりですると教示で遊んでしまったり、力をいれすぎて壊してしまったりするので、教師と一緒に持つなどして、落ち着かせたり力の入れ方を調整させたりする事が必要 ・ちょっとした人の動きや物移動で気が散りやすいので、あらかじめ周囲や教材を整理しておき、落ち着いた環境の中で学習を行う。</p>
<p>国語、数学と設定した時間のみでなく、学校生活全般で指導したこと・・・ことばについては名前を呼ばれたら「ハイ」と返事をさせるよう指導した。 朝の会ではもちろんのこと「〇〇さん」とはっきり呼んであげ、待つことで、こちらに集中させ「返事をしよう」という気持ちをもたせました。卒業式には「ハイ」としっかり返事をすることができました。 数については、数の概念は難しいので給食の食器(自分の食べたもの)を片付けることをさせました。集中させるためには「よく見る」ことを促し、時には頭を意図的に対象物の方に向けさせることもありました。</p>
<p>課題・目標 (読み聞かせ)・・・場面の变化や言葉の持つリズムを楽しむ(すごろく)・・・好きなキャラクターの登場を期待し楽しむ(カルタ)言葉と具体物、写真をマッチングする(ボーリング、魚釣り)簡単なルールを理解しゲームを楽しむことができる。 指導内容・方法・・・効果音や繰り返す言葉などを楽しむ。絵カードの定時とともに分かりやすい言葉かけを行う。好きなキャラクターを登場させ楽しく行う。カードを引く場面を作り、次の展開が期待できるようにする</p>
<p>絵本:登場人物と同じくさをしたり、物語の場面にあわせて楽しい表情や怖い表情をしたりと、話の展開を楽しむ事ができる。名詞・動詞の理解:3~4枚の絵カードの中から、指示されたカードを選び取る事ができる。名詞・動詞のみでなく、「かぶるもの」や「乗るもの」なども選ぶ事ができる。指示を良く聞き、支持を待つこともできるようになった。ルールなど:友達が行う様子をよく見て、何をするのか大まかに理解し、活動できる。発声:意欲的に取り組み、ぎこちないが、息を前に出せるようになってきている</p>

【質問1】各学習における到達目標と指導方法、ならびに課題について

1. 教科領域学習

2) 日常生活(身辺自立面)

「定時排泄ができるようになる」家庭と連携して、排泄、排便時刻の記録をとることにより、本児の排泄のリズムを知り、トイレに座らせるようにした。夏場は、排泄間隔が長くなり、便座に座ると廃せついで出来ることが増え成功したときには、大いにほめた。また、トイレに行くことを嫌がるが多くなったため、本児の好きなシールをトイレに置き、便座に座ったらシールをわたるようにすると、トイレまでスムーズにいけるようになった。最近では、定時排尿ができるようになり、ほとんど失敗がない。便意の感覚も育ち自らトイレサイン(前ズボンたたき)を出し、トイレで排便できるようになっている。排尿についても、トイレサインを出して、大人に伝えることができるようにしたい。

- ・排泄はサインで教えられる。
- ・着脱(衣服)は一人ではできないが意欲はある。
- ・くつの着脱はひとりできる。
- ・食事はほぼ一人できる。
- ・牛乳はストローを使って飲む

排泄・・・サインでトイレに行くことが出来るようになってきたので、時間排泄はせず、本児の訴えを大切にしている。ただ、好きなことをしていると失敗することがあるので、その際は言葉をかけている。
着替え・・・上着(かぶるもの)はえりを持ち、スポット抜きながら脱ぐことを練習中。帽子、靴の取り方は声掛けでできるようになりつつある。
やはり刺激のない環境を用意し、(段ボールハウス)そこで、着替えることで、集中力は増し、できることが増えつつある。担任数が少なく、じっくりゆっくり取り組めないときもあるのが課題。

- ①ズボンを片手でもって少しでもあげる。
 - ②上着を脱ぐ時は顔が隠れるところでとめて、自分で脱がせる。
 - ③トイレの合図で近くのトイレに座らせる。→自分からトイレに行く(入る)＝一度だけできた。
 - ④スプーンでご飯をすくって食べる。→口に入れるときにこぼすことが多いので、少し手を添えて角度調整。
 - ⑤くつに足を入れる。くつが見える場所にくつをおいておく、足先をくつにさわらせて一人ではかせる。
- [課題]何かできかけると、わざと「イヤだー」と反抗的になる。「トイレ」「くつ」など

- ・到達目標
サインで便意や尿意を訴え、排泄が自立すること。
簡単な手助けで、食事・着脱・手洗いが自立すること。
歯磨きの介助を受け入れること。
- ・指導方法
時間排泄をベースに、トイレに行く前にはサインを模倣させる。
絵カードで手順を示して、排泄や歯磨きの見通しを持たせる。
着脱ではどこを持ってばいいのか声をかけ、必要に応じて手を添えて行わせる。
茶碗や汁椀の代わりに持ち手つきのカップを代用し、合成樹脂で持ちやすくなったスプーンとフォークを使わせ、どこを持ってばいいのか声掛け、必要に応じて手を添えて行わせる。
- ・課題
絵カードを触って遊びになることがある。
排便のリズムが合わず、パンツの中でもよおすことが多い。
落ちていた食べ残しを口に入れようとするところがある。

- ・歩行は不安定なので、常時1対1で転倒予防の必要がある。
- ・食事はスプーンの使用(フォークも一部さしやす物に使用)、手元を見ないのでうまくすくえなかったりこぼれることが多い。水分は乳幼児用マグ使用(たくさん出ないような小さな口にしてむせないようにしている)。ストロー不可。ごくまれにオエツとなることもある。スプーンがうまく入らないことで手づかみになることがある。
- ・排泄はサインで伝え失敗は学校生活の中ではほとんどない(授業がいやになるトイレのサインを出すことがある)。下着を自分で下げたりは介助が必要。
- ・衣服の着脱は袖をひっぱって裏返さずに脱ぐことができる。大きな(3cm)すべりにくい木製のボタンははめたりはずしたりできる。

- (目)1. 食べ物をスプーンですくい、口に運ぶ。
2. 登校したら、鞆を開いて棚の中の決まった場所へ荷物を片付ける。
(方)1. 傾斜皿と滑り止めマットを使用し、おかずを一口サイズに切って、スプーンですくいやすくします。その際、好きなメニューから取り組んでいきます。
2. できるだけ同じ言葉掛けを繰り返して行い、荷物の名前と写真カードの一致を図りながら物の名前を覚えたり、決められた場所へ片付けたりできるようにしています。
(課)1. 傾斜皿におかずを小分けし。

・自分から着替えに取り組む事ができる・・・やり初めに渋る事があるが事が掛けにより最後まで自分でやろうとする。手指訓練もかねて、ボタンつけ練習して出来るようになってきた。
 ・スプーンを正しく持ち、きれいに食べる事ができる。・・・にぎりながらかきこむように食べていたが、正しい持ち方に対面から一口づつ入れるよう指導をしつづけ、上手に食べる事が出来るようになってきている。
 ・トイレサインを出す事が出来る。・・・サインは出すがぎりぎりのため、時間は移設を促す必要がある。

・ほぼ全介助
 ・歩行練習中

今年度は『少ない支援で着替え、衣服の整理整頓ができる。』ことを目標としました。具体的には、衣服のボタンがけや袖を裏返しにしないように脱衣することに取り組みました。ボタンがけにおいては机上でボタンがけの練習を繰り返し行い、手元に集中するように促しました。

脱衣においては、今年度初め、袖を裏返しにしてしまう脱衣であったため、毎回声をかけてながら、裏返しになった袖をなおすようにしていたのですが、裏返しにしないで脱衣すれば、より少ない支援でよいのではないかと考えられたため、袖をつまみながら脱衣する練習を繰り返しました。最初は教師が手を誘導して袖をつまむように促しましたが、徐々に声掛けのみでできるようになってきました。今後は、一人でもできるようにしたいとおもっています。

着衣については、年度初めに比べると一人で出来る回数が増えています。衣服の前後の区別がつかないことと、制服のボタンがけでつまずきが見られますが、それ以上は側に誰もつかない状態であっても、できるようになってきました。

食事は順手ではあるが、スプーンで上手にすくって食べている。

「到達目標」

・普通の食器を持って、スプーンやフォークで食べる事が出来る。

「指導方法」

・残りが少なくなった好物を普通のお皿ですすめてみる。

「課題」

・好きなデザートだけでも普通の持ち方ですくって食べる。

着替え

「到達目標」

くつを自分ではいたり、ぬいだりできる。

「指導方法」

椅子に座った姿勢で、マジックテープをはがしたり、つけたりの練習をする。

「課題」

現在、自分の足を使って、ぬいでいて手を使おうとしない。

別紙の個別指導計画を参照

・着替えや排泄などの日常の介助に、本人も協力できる事を目標としている。
 ・本人の気持ちを尊重しながら、すべきことを提示し、介助者と一緒に取り組む。
 ・トイレ介助は、好きなトイレの場よで登校時、昼食後、下校前と決めて行っている。

・便器でおしっこをする

→校内では布パンツで過ごす、定時排泄

→トイレでの排泄を身に付ける事。布パンツで過ごす時間をより長くすること

・両手でズボン上げる

→本人が壁に寄りかかる状況や教師が体を支えるなど姿勢を安定させる。

→ズボンのつかむ位置の調整

・排泄：定時排泄が確立しつつある(中3から高1にかけて)・・・9:10,10:25,11:50,12:50,14:15,基本的に上記の時間に行くようにはしているが本人が「出ない」と意思表示することもある。その時は、極力本院の意志を尊重し、タイミングを見て声をかける(あるいは、トイレのサインを出すように声掛けをする)。

靴の着脱：ゆっくりではあるが、自分で行う(しかし、部分介助の必要はある)。また、動作中に周りのこと(特に知っている人)に気を取られてしまう事があるので、声かけは必要である。・上履きを履く際には、かかるとリングをつけているので、状態をグット下ろし、手をかかと付近まで伸ばし、リングを引っ張り上履きを履く。

・トイレで座る事に慣れて、時間排泄を定着する事で尿取りパットを使用せず、パンツで過ごせるようにする。

・衣服の着脱においては、自分のすることが意識できて、自分でできることを増やすために、衣類を見せて言葉をかけ、衣服を脱ぐ事、着る事に意識をもってもらう。また、腕などを介助しながら、自分から身体を動かすことができるようにする。